



やるきほんき木佐木

神奈川県議会議員
日本共産党

2025.10.8

木佐木ただまさ news

発行：党横浜北東地区委員会

横浜市鶴見区潮田 3-147-6

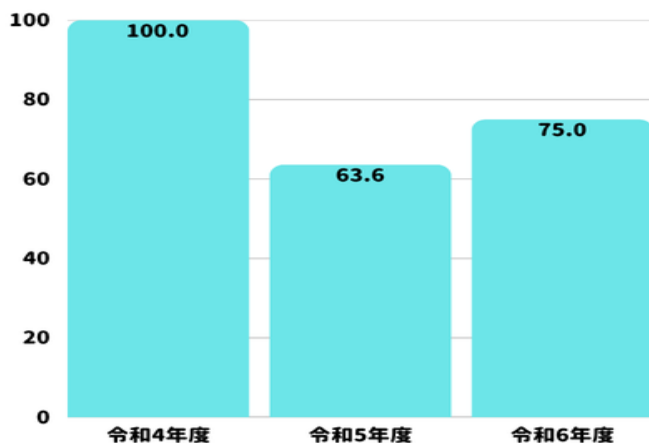
TEL：045-511-1021

Profile

- ▶1984 年山梨県出身
- ▶鶴見区馬場在住
- ▶神奈川大学法学部卒
- ▶よこはま健康友の会会長
- ▶横浜東民商顧問

教員の性暴力、なぜ多発？徹底追及！

性暴力や性加害事件で懲戒処分を受けた教職員のうち、経験年数5年未満の若手が占める割合



後を絶たない教職員による性暴力・性加害事件。私は9月30日の文教常任委員会で、この問題について、追及しました。特に私が焦点を当てたのは、事件を起こした教職員のうち、経験年数5年未満の若手に処分が著しく偏っているという、衝撃的な事実です。

「個人の資質」で済ませる県教委

私が委員会で質したところ、県教委の答弁により、性暴力や性加害事件で懲戒処分を受けた教職員のうち、経験年数5年未満の若手が占める割合は、令和4年度は100%、令和5年度は63.6%、そして令和6年度は75.0%にものぼることが明らかになりました。

この事実に基づき、私は「これは単なる個人の問題ではなく、若手教員がそうした過ちを犯してしまう背景に、何か制度的・構造的な課題があるのではないか」と、教育委員会の認識を問いました。

しかし、返ってきたのは「個人の経験不足や想像力の乏しさが原因」という答弁。つまり、あくまで「個人の資質の問題」であり、組織としての構造的な課題があるとは認識していない、ということです。これでは、いつまで経っても根本的な解決には至りません。

背景に「多忙化」と「サポート不足」

私は、この答弁に対して再度、反論しました。もし個人の資質の問題であるならば、なぜこれほどまでに若手に事件が集中するのでしょうか。

私は、問題の根源には、①採用段階での見極めの甘さ②初任者研修の内容③そして何より、現場の深刻な多忙化と、それによる若手へのサポート不足といった構造的な問題があると考えています。教員が足りず、現場に全くゆとりがない中で、経験の浅い若手教員が追い詰められ、適切な指導やサポートを受けられないまま、取り返しのつかない過ちを犯してしまう。そうした構図があるのではないのでしょうか。

県民の信頼を取り戻すためには

私は委員会で、個人の責任追及に終始するのではなく、教員の採用・研修、そして何よりも現場の多忙化を解消し、十分な人員配置を行うことこそが、真の再発防止策に繋がると強く主張しました。

子どもたちが安心して学校に通えること、そして保護者の皆さんが学校を信頼できること。その当たり前の神奈川県を実現するため、私たちは、まず必要な数の正規教職員を確保できていない現状から変えるべきだと考えます。

YOUTUBEでも動画で紹介しています⇒

